花かごとたいこ

小川未明

青空文庫

ある日たけおは、おとなりのおじさんと、釣りにいきました。おじさんは、釣りの名人でした。いつも、どこかの川でたくさん魚を釣ってこられました。

たけおは、こんどぜひいっしょにつれていってくださいとおねがいしたところ、ついに、そののぞみをたっしたのでした。

電車をおりて、すこし歩くと、さびしいいなか町に出ました。それを通りぬけてから、道は、田んぼの方へとまがるのです。この角のところに、小さな店がありました。

「ちょっとまってて。」と、いっておじさんは、その家へはいり、たばこをお買いになりました。またそこには、いろいろと釣りの道具も売っていたので、おじさんは針や浮きなどを見ていらっしゃいました。

たけおは、ぼんやりと前に立って、あちらの高い木の若葉が、大空にけむっているのを、心から、美しいと思って、ながめていました。

そのうち、ふと気づくと、店のちょっとしたかざりまどのところへ、二つならんだお人形が、目にはいりました。かわいらしい女の子と、ぼうしをかぶった男の子で、女の子は、花かごをもち、男の子は、たいこをたたいているのでした。日本の子どもらしくない、西洋の子どものふうをしていました。

「船できた、お人形かしらん。」と、考えていると、ちょうど、おじさんが出ていらしって、「おまちどおさま。」と、たばこをくわえて、にこにこしながらおっしゃいました。そして、先に立ってお歩きになったので、たけおもあとについて、かげろうのあがる田んぼ道をいきました。そこここに、つみ草をする人たちがありました。

やっと川のそばへ出ると、なみなみとした水が、ゆったりとうごいて、日の光をみなぎらせていました。

そして、わすれていたなつかしいにおいを、記憶によみがえらせました。

それから二人が、草の上へこしをおろしました。じっと、川のおもてをみつめていると、青い水の上へ、緑色の空がうつりました。

いつしかたけおは、まだ自分の知らない、遠い外国のことなど空想しました。すると、さっきのかわいらしい人形のような子どもが、そこであそんでいるのが、目にうかびました。また自分がいけば、いつでもお友だちになってくれるような気がしました。たけおは、そう思うだけで、うれしさとはずかしさで、顔があつくなるのでした。

パチパチと水のはねる音がして、銀色の魚がさおの先でおどって空想は、やぶられました。このときおじさんが大きなふなを釣られたのでした。

この日おじさんは、釣られた魚を、みんなたけおのびくに入れてくださいました。たけおは、自分は釣れなかったけれど、大漁なので、大よろこびでした。

帰りにもう一度あの人形を見られると思ったのが、道がちがって、ほかの場所から電車にのったので、ついに、人形のある店の前を通らなかったのです。

電車にのってからおじさんに、たばこを買った店で、船来の人形を見たことを話すと、

「なあにあれは、ざらにある安物だ。」と、おじさんは、気にもとめられませんでした。

物知りのおじさんのことばだけに、たけおは、じきあの人形を、ほしいと思うのをあきらめてしまったが、どこか遠い花のさく野原を、花かごをもった美しい少女と、たいこをたたく男の子が、いまでも歩いているような気がして、そう思うだけでも、なんとなく自分は、たのしかったのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　14」講談社
　　1977（昭和52）年12月10日第1刷発行
　　1983（昭和58）年1月19日第5刷発行
底本の親本：「みどり色の時計」新子供社
　　1950（昭和25）年4月
初出：「小学二年生」
　　1948（昭和23）年4月
※表題は底本では、「花《はな》かごとたいこ」となっています。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：酒井裕二
2018年12月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

花かごとたいこ

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/